

トップインタビュー



古河電工メタルケーブル

徳田 繁 社長

については？

「売上高264億円で、前年度比約12%増加となり、営業利益は過去最高の業績を更新した。電線ケーブル不足による需要増、人件費や原材料費などの価格転嫁の推進など、前年度は電線業界の事業環境が改善した。また、アルミケーブルの売上が伸びた」

——社名変更で事業環境に変化は？

「今年4月に旧古河電工産業電線と旧KANZACCが事業統合し、古河電工メタルケーブルに社名変更した。1年前から統合することを公表し、下準備する期間もあったことから、お客さまには違和感なくスムーズに受け入れていただいていた。同じ古河電工グループの2社が事業統合したこと、一体感が出てきて倒しになっている。第1四半期の落ち込みから、まだ回復しきれていない状況だ。一方で、データセンター向け製品や、LNGガス向けケーブルなど、24年度の事業実績

「売上高264億円で、前年度比約12%増加となり、営業利益は過去最高の業績を更新した。電線ケーブル不足による需要増、人件費や原材料費などの価格転嫁の推進など、前年度は電線業界の事業環境が改善した。また、アルミケーブルの売上が伸びた」

「足元の環境は厳しく、荷動きは全体的に良くない。建設・電販市場は人手不足などが影響して工期が遅れ、件名が後る倒しになっている。第1四半期の落ち込みから、まだ回復しきれていない状況だ。一方で、データセンター向け製品や、LNGガス向けケーブルなど、24年度の事業実績

ブルなどは好調だ」

——旧KANZACCと統合して、シナジー効果は？

「営業面で効果が出ている。これまでは営業活動はそれぞれが行っていたが、

今こそ業界全体でアルミの安心・安全な施工をメタル電線事業再編でクロスセルを推進

古河電工メタルケーブルの徳田繁代表取締役社長が本紙のインタビューに応じた。同社は今年4月、旧古河電工産業電線と旧KANZACCが統合し、古河電工メタルケーブルに社名変更した。アルミ市場が拡大する中で、同社は製造から施工・メンテナンスまでワンストップで提供することに強みを持つ。徳田社長は「市場が拡大した今だからこそ、業界全体で安心・安全な施工を心掛けるべきだ」と語る。

理研電線と統合中国への拡販も視野

——10月の理研電線との統合に期待すること

「古河電工グループの産業用電線を統括する企業として、一層飛躍していくための準備がようやく整う。理研電線はエレベーターケーブルが主力であり、旧KANZACCと同様にクロスセルを推進する。また、理研電線の中国の子会社も統合するため、国内・現地向けの拡販を進める」

工場では、アルミケーブルの技能訓練センターを開設し、取り扱いに関する知識と端末処理などを講習と技能で学べる。そして講習を受けた方には、らくらくアルミケーブル技能講習修了証を発行し、顧客と信頼関係を築いている。

アルミ普及の動きは過去にもあったが、端子との接続や不適切な工事で事故があったと聞く。当社は10年ほど前から、端子・工具・施工指導などを提供し、安心・安全に工事できる体制を整えた上で、ここまで市場を拡大してきた。市場が拡大してくると各社が参入してくることは当然だが、今だからこそ業界全体で安心・安全な施工を心掛けるべきだ。アルミは軽く扱いやすく、省力・省人化にも寄与することを今後もさらに広めていきたい」

100%再エネ由来に全拠点で切り替え

——SDGsへの取り組みは？

「昨年度から全拠点で再生可能エネルギー由来の電力を導入した。旧KANZACCでは25%のみの導入だったが、今年度から100%再エネ由来に切り替える。

アルミは地金を精錬する工程で大量の電力を必要とする。当社は水力発電で電力を賄う『グリーンアルミ』の調達を始めて、将来的にはすべてのアルミを『グリーンアルミ』に置き換えることを目指している。原材料の調達から製造工程ま

で、カーボンニュートラルに貢献できる体制となっている」

——最重要課題は？

「古河電工グループのパーパスである『つづくをつくり、世界を明るくする。』のもと、当社も産業電線という分野でこのパーパスを体現していく。生い立ちや文化が違う企業が統合したことで、今後もさまざまな課題が出てくるだろう。シナジー効果を生み出して社内一体感を出し、パーパスに向けて貢献していくことが課題だ」

「古河電工グループのパーパスである『つづくをつくり、世界を明るくする。』のもと、当社も産業電線という分野でこのパーパスを体現していく。生い立ちや文化が違う企業が統合したことで、今後さまざまな課題が出てくるだろう。シナジー効果を生み出して社内一体感を出し、パーパスに向けて貢献していくことが課題だ」

「古河電工グループのパーパスである『つづくをつくり、世界を明るくする。』のもと、当社も産業電線という分野でこのパーパスを体現していく。生い立ちや文化が違う企業が統合したことで、今後さまざまな課題が出てくるだろう。シナジー効果を生み出して社内一体感を出し、パーパスに向けて貢献していくことが課題だ」

「古河電工グループのパーパスである『つづくをつくり、世界を明るくする。』のもと、当社も産業電線という分野でこのパーパスを体現していく。生い立ちや文化が違う企業が統合したことで、今後さまざまな課題が出てくるだろう。シナジー効果を生み出して社内一体感を出し、パーパスに向けて貢献していくことが課題だ」

今こそ業界全体でアルミの安心・安全な施工をメタル電線事業再編でクロスセルを推進

「古河電工グループのパーパスである『つづくをつくり、世界を明るくする。』のもと、当社も産業電線という分野でこのパーパスを体現していく。生い立ちや文化が違う企業が統合したことで、今後さまざまな課題が出てくるだろう。シナジー効果を生み出して社内一体感を出し、パーパスに向けて貢献していくことが課題だ」

「古河電工グループのパーパスである『つづくをつくり、世界を明るくする。』のもと、当社も産業電線という分野でこのパーパスを体現していく。生い立ちや文化が違う企業が統合したことで、今後さまざまな課題が出てくるだろう。シナジー効果を生み出して社内一体感を出し、パーパスに向けて貢献していくことが課題だ」

「古河電工グループのパーパスである『つづくをつくり、世界を明るくする。』のもと、当社も産業電線という分野でこのパーパスを体現していく。生い立ちや文化が違う企業が統合したことで、今後さまざまな課題が出てくるだろう。シナジー効果を生み出して社内一体感を出し、パーパスに向けて貢献していくことが課題だ」

今こそ業界全体でアルミの安心・安全な施工をメタル電線事業再編でクロスセルを推進